

東京都脳卒中急性期医療機関：脳卒中急性期医療に関するアンケート調査の概要

1 調査実施概要

平成20年10月7日現在

(1) 調査期間 平成20年8月1日～8月18日	(2) 調査対象 281施設 ・「東京都保健医療計画における脳卒中の急性期の医療機能を担う医療機関」として申し出のあった医療機関 ・東京都指定二次救急医療機関	(3) 回答数 261施設 (回答率: 92.88%)
-----------------------------	--	-----------------------------------

2 調査結果概要

【アンケート1～各医療機関の脳卒中医療に係る体制～】

項目	選択肢ア～エ	
医師	専門医等かつt-PA講習受講済か受講予定の医師が1名以上いる	各項目とも左記(選択肢ア～エ)を満たす医療機関 109施設
脳外科	脳外科的処置が迅速に行える体制	
放射線技師	常時配置またはt-PA治療時等に対応可	
臨床検査技師	常時配置またはt-PA治療時等に対応可	
専用治療室	あり	
CT、MRI等	設備あり	
薬剤師	薬剤師常駐、t-PA治療時等に対応可、オンコール、医師が対応、のいずれか	
リハビリ体制	脳血管疾患の急性期リハを行えるPTまたはOTが常勤	172施設

【アンケート2～各医療機関の1ヶ月(4週28日間)における脳卒中患者受入等～】

A: 平日 日勤帯 20枠
B: 平日 夜勤帯 20枠
C: 土日 日勤・夜勤帯 16枠

1) t-PA治療を含めた脳卒中急性期患者受入可能な体制枠数(アンケート1で各項目ともア～エを満たす)

	施設数	A	B	C	計	搬送人員
区部	70施設	1,296枠	996枠	769枠	3,061枠	1,436人
多摩部	27施設	506枠	376枠	282枠	1,164枠	546人
計	97施設	1,802枠	1,372枠	1,051枠	4,225枠	1,982人

搬送人員について
平成19年の脳血管疾患傷病者の搬送数に、28日/365日に乗じたものである
東久留米市、稲城市消防本部の救急隊の搬送人員は含まれていない。
脳血管疾患傷病者は、東京消防庁において統計分類している「初診時傷病名」が次に掲げるものであった傷病者を計上している。
くも膜下出血 脳出血 脳梗塞等 脳虚血等 高血圧脳症 その他の脳血管疾患
初診時傷病名が先に掲げたものに分類されない症状等(「意識障害」「頭痛」「片麻痺」「めまい」等)であった場合、集計不能であるため計上していない。

搬送人員を目安に受入可能枠の合計数をみると、概ね受入可能と思われる

2) t-PA治療は行なわないが脳卒中急性期患者受入は行っている体制枠数

3) 脳卒中急性期患者の入院受入状況(入院患者に限る)(平成20年4月～6月の3ヶ月間の実績)

	施設数	A	B	C	計
区部	37施設	508枠	486枠	372枠	1,366枠
多摩部	13施設	254枠	180枠	134枠	568枠
計	50施設	762枠	666枠	506枠	1,934枠

	脳卒中急性期患者の入院受入患者数(A)	(A)のうちt-PA治療を実施した件数	(A)のうち脳外科的処置を必要とした件数
区部	5,270件	116件	748件
多摩部	2,473件	65件	491件
計	7,743件	181件	1,239件
(%)	100.00%	2.34%	16.00%

4) 超急性期脳卒中加算の施設基準の届出状況

	届出済	届出予定	届出していない	無回答
区部	42施設	3施設	130施設	18施設
多摩部	15施設	3施設	44施設	6施設
計	57施設	6施設	174施設	24施設